

授業科目名	地域研究（Ⅰ）	単位数	2
担当教員名	木口 由香	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
「学位授与の方針」との関係			
星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部はこの三つの約束、教育理念に基づき「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。 A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ			
（Ⅰ） 東南アジア諸国の生態史・生業・環境問題について理解を深める。 （Ⅱ） 東南アジアの環境・開発問題を分析のするための理論や概念を理解し、応用できるようになる。 （Ⅲ） 開発と環境の関わるグローバルおよびローカルな課題を様々な角度から批判的に考察する思考力を身につける。 （Ⅳ） 特定の地域の環境・開発問題を理解する方法としての地域研究の可能性と限界について考察し、自分の見解を示せるようになる。			
授業の概要			
東南アジア社会が抱える環境と開発の課題について考察するとともに、地域研究のアプローチ・理論を学び、特定の地理的な領域を研究対象とする地域研究の有効性と限界について考察する。考察を深めるため、地域の生態、環境についても学習する。スクーリングでは、東南アジア諸国の具体的な環境・開発問題の事例から、問題の背景にあるそれぞれの社会の社会・経済・政治的な特徴や課題についてグループワーク等を通じて学ぶ。			
授業計画			
第Ⅰ回：イントロダクション：東南アジア「環境」の地域研究（序章） 第Ⅱ回：東南アジア大陸部の生態史（第Ⅰ章）			

第3回：東南アジア島嶼部の生態史（第2章）

第4回：東南アジアの生業（1）：人類を支えてきた狩猟採集（第3章）

第5回：東南アジアの生業（2）：新たな価値づけが求められる焼畑（第4章）

第6回：東南アジアの生業（3）：転換期を迎えた水田稲作（第5章）

第7回：東南アジアの生業（4）：フロンティアとしての漁業（第6章）

第8回：東南アジアを理解するための概念・視点（1）：脱国家論 京都学派とゾミア論（第7章）

第9回：東南アジアを理解するための概念・視点（2）：政策と権利のコモンズ論（第8章）

第10回：東南アジアを理解するための概念・視点（3）：ポリティカルエコロジー（第9章）

第11回：東南アジアを理解するための概念・視点（4）：エコロジー的近代化論（第10章）

第12回：東南アジア社会の課題（1）：森林保全のための国際メカニズム（第11章）

第13回：東南アジア社会の課題（2）：認証制度を通じた市場メカニズム（第12章）

第14回：東南アジア社会の課題（3）：農園農業（第13章）

第15回：東南アジア社会の課題（4）：災害対応（第14章）

定期試験

スクーリングでの学修内容

（主に、シラバスの授業計画の第1回～第11回までの内容を含む）

東南アジア大陸部での河川開発、海外投資、開発援助、気候変動への取り組み、資源開発、環境保全等のテーマについて、東南アジア諸国の事例から、問題の背景にあるそれぞれの社会の社会・経済・政治的な特徴や課題をディスカッションやグループワークを通じて学ぶ。その中で、テキストで学んだ地域研究のアプローチ・理論を応用する。

教科書

山本信人（監修）・井上信（編）（2017）『東南アジア地域研究入門 I 環境』慶應義塾大学出版会

参考文献

- ・児玉谷史郎・佐藤章・嶋田晴行（編著）（2021）『地域研究へのアプローチ グローバル・サウスから読み解く世界情勢』ミネルヴァ書房。
- ・今井昭夫（編）・東京外国語大学東南アジア課程編（編集）（2014）『東南アジアを知るための50章（エリア・スタディーズ）』明石書店。
- ・中野亜里[ほか]著『入門 東南アジア現代政治史』（2016）福村出版。
- ・地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会（2012）『地域研究：JCAS review Vol.12 No.2 総特集：地域研究方法論』。（オンラインで入手可：
http://www.jcas.jp/about/jcas_review.html）

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。